大分合同新聞

ラグビーW杯・準備加速

ワークシート

年　　組　　名前

① 現在のピッチは、日本大会で必要な広さに縦、横それぞれ何㍍足りませんか。ただし、長い方を縦とします。

縦　１３０－１０７＝23㍍

横　80－71＝９㍍

② 大会に必要なサイズのピッチの、面積は何平方㍍になりますか。

１３０×80＝１０４００平方㍍

③ 県はＷ杯の準備をするため、２０１７年度にいろいろなことをします。そのための費用は、全部でいくらかかる予定ですか。記事から探しましょう。

約７億４千万円

新年度からラグビーW杯に向けて準備を加速する大分銀行ドーム＝大分市

ラグビーW杯 準備加速

2019年ラグビーワールドカップ（W杯）日本大会の大分開催に向け、県は17年度から開催準備を本格化させる。試合会場となる大分銀行ドーム（大分市）で仮設の人工芝など必要な設備を導入。ビッグイベントに向けた機運の醸成などにも力を入れる方針。17年度一般会計当初予算案に開催地の分担金を含む関連経費（計約7億4千万円）を計上した。

RUGBY WORLD CUP JAPAN日本2019

2019大分へ

県によると、大会組織委員会が示す基準に沿ってドームを整備する。現在のピッチ（天然芝）の広さ（107㍍×71㍍）では必要なサイズ（130㍍×80㍍）に足りない。ピッチ周辺を囲んで面積を広げる仮設の人工芝を用意する。高さ17㍍のゴールポストも購入。W杯対応だけでなく、日本代表戦などレベルの高い国際試合を誘致できるメリットがある。

ピッチの天然芝は本番に向けた張り替えを予定している。過去は冬時期に実施してきたが、夏時期とどちらが最適かを検証。ピッチの一部を使って実験し、芝の状態を比べる。

過去には日照不足の影響で状態が悪化したこともある。今年は欧州などで使われる人工的に光を当てる機器を試験する。芝の成長促進や良好な状態を保てるかを確認し、有効であれば導入を検討する。

ドームに仮設人工芝 機運醸成へイベント

県が17年度予算案に計上

ドームでは他に観客席537席の増設、トイレ75基の洋式化も進める。

今年は5月に組み合わせ抽選会があり、秋ごろには試合日程が決まって開催2年前も迎える。機運を高めるため、節目に合わせた歓迎イベントの開催も検討。試合会場への交通輸送の計画作りや大会ボランティアの募集に向けた準備にも着手する。

県国際スポーツ誘致・推進室は「いよいよ2年前を迎えるので開催準備を本格的に進める。万全の状態で国際大会を迎え入れたい」としている。

（加納慶）

（2017年2月28日付朝刊1面）